
こんにちは赤ちゃん

馬河童

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんにちは赤ちゃん

【コード】

N0235E

【作者名】

馬河童

【あらすじ】

浮気がバレそうな夫と妻子。赤ん坊が引き起こす事件とは???

俊雄は焦っていた。妻の美穂の妊娠中、高校の同窓会で会った良子と深い仲になってしまった。息子の忠弘の誕生後も泥沼のようにその関係が続けていたのだが、先日、それがバレそうになったのだ。車中に良子が口紅を忘れていき、それを妻が発見したのである。執拗に追求されたが、俊雄は

「お前のじゃないのか？」

とシラを切り通した。その場はやり過ごしたものの、妻は明らかに疑いの目を向けていた。

その週の日曜日、妻は六カ月の息子を俊雄に預けて、美容院へ行った。一時間程あやすと、忠弘は上機嫌で一人遊びを始める。赤ん坊が言葉を理解出来ないのいいことに、俊雄は良子に電話を掛けた。

「この前、車に口紅を忘れていったらどう？妻に見つかって散々な目に遭ったよ」

「ごめん。気を付けるわ」

良子は大して悪怯れる様子もなく言う。その証拠に次の言葉は

「で、次はいつ会えるの？」
だった。

「お前なあ、少しは反省しろよ」

と言いながら、俊雄も悪い気はしない。

「明日、仕事終わったら迎えに行くさ」

と反省の色など全くないように言い放つ。そして電話を切った。

俊雄は携帯電話を脇に置き、一人でおもちゃをいじっている息子の方へ向き直った。

「よしよし」

抱っこして頭を撫でると、忠弘は笑みを見せた。浮気をして、息子がかわいい気持ちだけは偽りがなかった。柔和な笑顔、小さな

手足、丸い身体つき、どれを取ってもかわいくて仕方がない。その時、

「ただいま」

と玄関の方で声が揚がり、美穂が帰ってきた。

「おかえり」

と言ったものの、先程の良子に掛けた携帯電話の記録を消していない事が、俊雄には気掛かりだった。妻の帰りは予想以上に早かった。

「ありがとう。いい子にしてた？」

さっぱりとした髪型で戻ってきた美穂が、礼を言う。

「ああ。ご機嫌だったよ」

と言い、俊雄は息子を床に置いた。忠弘は寝返りを打ち、うつぶせになる。六カ月にしては太っており、まだ仰向けに戻ったり、ハイハイは出来ない。

「お茶飲もうぜ」

と俊雄が言うと、美穂は台所へ行ってお茶道具を持ってきた。妻に入れてもらい、二人で茶を啜る。俊雄は一口飲んで落ち着いた気分になった。

だが次の瞬間、驚くべき事が起こった。忠弘が突然ハイハイして、俊雄の携帯電話を掴んだのだ。

「忠弘、すごい」

美穂は喜ぶ。俊雄も

「すごいな」

と言ったものの、携帯電話を握られているので、内心冷や冷やしていた。

「忠弘、返しておくれ」

と手を伸ばすが、一手遅かった。息子はなんと美穂の眼前で、良子にリダイヤルしてしまったのだ。

「貸して」

すかさず電話を奪ったのは美穂だった。そして電話の向こうの相

手と何やら話し出した。俊雄は何も出来ず、呆然としてそれを見つめるだけだった。

「ふーん」

美穂がしたり顔で言う。

「げんぶ聞いたわ。この良子って女から」

（良子の奴、何て事を…）俊雄は頭にきたが、それより頭にきている人間が眼前に仁王立ちしており、意気消沈するほかなかった。完全に証拠を握られ、全く弁解の余地はない。

「あんた、やつぱり浮気を…」

と美穂が射抜くような目付きで言った時、テーブルにあった彼女の携帯電話が鳴った。美穂は背を向けて電話を取ろうとしたが、

「オギャツ」

忠弘が突然テーブルに捕まり立ちして、携帯電話を叩き落した。

そしてそれは軽快な着信音楽を鳴らしながら、俊雄の眼前に転がった。

「ちよつと!」

美穂が叫ぶが、俊夫はそれを無視して携帯を掴む。そして、

「もしもし」

と電話に出た。美穂が怒っているような泣きそうな、微妙な表情で見つめていたが、俊夫は意に介さない。

「なぐるほどな」

電話を切って、俊夫が呟く。

「そつちもやる事やってるんじゃないか」

「くっ…」

苦虫を噛み潰したような顔をする美穂。

「聞いたよ。電話の男から全部な。そつちも密会してたんじゃないか。いや、危ない危ない、俺ばかり怒られ損をするところだったぜ」

何とも言えない表情をして睨み合う両親を前にして、忠弘は「アー」と叫んでいた。しかし、それにはちゃんと意味があったの

だ。

「どうしようもねえな、ウチの両親。パパはママがいない間に平気で女に電話してるし、ママにいたっては腹の中にいる時にまる聞こえなんだもんなあ。まあボクもその子供なただけどさ……」

(後書き)

同じく昔投稿してボツになった作品です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0235e/>

こんにちは赤ちゃん

2011年1月6日02時27分発行